

「話す・聞く」動画でモデルを共有する

第二回では、これまでの授業スタイルを変えずに、デジタル教科書の活用気軽に組み入れる実践をご紹介します。今回は、これまでの授業スタイルを改善するために「デジタル教科書を活用した実践」をご紹介します。



東京都生まれ。横浜国立大学大学院教育学研究科修了。横浜市内の公立小学校教諭、主幹教諭を経て、現職。専門分野は、教育学（授業設計、情報教育）、教科教育法。共著書に『タブレット端末で表現する協働的な学び』（フォーラムA）など。

1 「話すこと・聞くこと」のモデル

前回ご紹介した、デジタル教科書を活用している教師を対象とした意識調査によると、「話すこと・聞くこと」領域においてデジタル教科書の効果を実感している教師の割合は、「読むこと」領域に比べて非常に低いことが分かっていました。もちろん、デジタル教科書に収録されているコンテンツ数の差も影響しているのかもしれませんが、しかし、それだけではなく、「話すこと・聞くこと」の授業作り自体に難しさを感じている教師が多いことの表れではないかと、私は感じています。

文字言語で書かれた教科書を使って、音声言語である「話すこと・聞くこと」の力をどう身につけさせたらよいのか、

悩んだことはないでしょうか。これは、私自身の長年の悩みでもありました。

今回は、私のこれまでの実践の中から、デジタル教科書を活用し、子どもたちに「話すこと・聞くこと」の力を身につけさせようとした単元「夢の乗り物発表会をしよう」（二年下「あったらいいな、こんなもの」と、「話し合い活動」をバージョンアップしよう）（四年上「よりよい話し合いをしよう」）の事例をご紹介します。

2 「あったらいいな、こんなもの」（二年）

(1) 単元の指導目標

◎自分が考えた乗り物について、相手に分かるように、話す事柄の順序を考え、声の大きさや速さなどに気をつけ

て、丁寧な言葉で話すことができる。

○大事なことを聞き落とさないように気をつけながら友達の話聞き、感想を述べたり、質問をしたりすることができ

る。

○互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うことができる。

(2) 単元の指導計画（全十四時間）

第一・二時

学習の進め方について見通しをもつ。

第三・六時

考えた乗り物の形や働き、あったらいいと思うわけなどについて、二人一組で質問し合い、想像を広げる。

ここで活用！

第七・十一時

話す内容と順序を考え、発表のためのメモを書き、二人一組で発表の練

習をする。

▼第十二～十四時

「夢の乗り物発表会」を開き、相互評価や振り返りを行う。

(3) 活用のポイント

——モデルと学習課題を共有する

■指導の意図

この時期の子どもたちは、話すことが大好きで、家での出来事や友達と遊んだことなど、教師や友達と積極的に話をする姿が見られました。しかし、その多くは、相手意識が感じられる話し方・聞き方になつておらず、思いついたままの順序で話し、相手が聞きたいことをうまく説明できない子、相手の話を最後まで聞くことができない子が多くいました。

そこで、考えた乗り物について質問し合う学習では、目の前にいる友達が一生懸命に聞き、質問してくれる体験、それに自分が答える体験を、子どもたち全員に積ませたいと考えました。それには、二人一組で取り組ませることが効果的

です。ただ、二人一組での学習活動では、教師が子どもの状況をこまめに見取る必要があります。やり取りに行き詰まったり、話の本筋がそれてしまったりしている二人がいても、教師がそれに気づかない

ために学習が深まらない、ということもあるでしょう。ですから、活動に入る前に、話し方・聞き方のモデルとなる姿を子どもたちと共有しておくことが重要と考えました。

■紙の教科書だけを使っていたとき

デジタル教科書を活用する以前の授業では、活動に入る前に、紙の教科書に書かれている例や観点を読むようにしていました。

「教科書に書いてあるように、話し手は、『あったらいいな』と思う乗り物の名前『あったらいいな』と思うわけ』『できること』『形や色、大きさ』などを伝えましょう」「聞き手はしっかりと聞いて、できることや、形や大きさで分からないことがあったら尋ねましょう」と課題を提示し、活動のゴールを子どもたちにイメージさせます。そして、活動の途中、適切にやり取りし合っている二人の様子を全体で共有し、手本とさせるようにします。こうした手立てによって、モデルと学習課題を全体で共有してきました。

しかし、この手立てでは、モデルの姿を文字言語でしか提示することができません。冒頭でも述べたように、私は、音声言語によってやり取りされるモデルの

姿を、文字言語によって理解・共有させることに限界を感じていました。子どもたち自身が、自分の耳でモデルとなる音声を聞いて大切なことを押さえ、実際に自分で音声言語を使うことによってこそ、「話すこと・聞くこと」の力が身につくものと思うからです。

■デジタル教科書を活用した授業では

「音声言語でモデルの姿を共有したい」という私の思いを受け止めてくれたのが、デジタル教科書の「話すこと・聞くこと」教材に収録されている動画です。これを使えば、教科書の例にある話し方・聞き方・話し合い方だけでなく、表情・身振りまで含めた実際の様子を映像で見ることができます。本単元では、この「話す・聞く」動画を活用して、モデルの姿を子どもたちと共有することにしました。

この動画では、二人の子どもたち（平成二十七年版準拠「デジタル教科書」では、「ささきさん」と「ふじいさん」）が、考えた道具についてのやり取りをしています。そこで、学習課題として、「動画に出てくる二人の話し方・聞き方の、よいところを見つけよう」と投げかけることにしました。子どもたちは、映像を見ながら、動画に出てくる二人の話し方・

聞き方のよいところを次々と発見していききました。その後は、紙の教科書を使って、それらのよいところを文字言語で確認するようにします。音声言語は時間とともに消えてしまうため、大事なことについては、文字言語で押さえる必要があるからです。



▲考えた道具について、二人がやり取りする様子が収められている（動画「ささきさんとふじいさんのやりとり」）。

たりといった手立てをとっていました。しかし、話し合いのしかたを感覚的に理解させ、課題意識をもたせることは、なかなか難しいものでした。

■**デジタル教科書を活用した授業では**
デジタル教科書では、話し方・聞き方・話し合い方についての解説音声入りと解説音声なしのもの、二種類の「話す・聞く」動画を見ることができます。解説音声入りの動画は、それを注意深く聞くことで、学習課題をつかむことができるように作られています。解説音声入りの動画を使った授業展開も考えられますが、ここでは、子どもたちに、より主体的に学習課題をつかませたいという思いのもと、解説音声なしの動画を視聴させることにしました。

クラス全体で動画を見ながら、誰かが「この話し方・聞き方はよい」という場面を見つけたら一時停止をし、みんなで再度確認して、よいところを共有していくという学習活動です。子どもたちは、「話題からそれない」「自分の立場をはっきりさせる」「例を挙げて説明する」など、よりよい話し合いをするための観点を次々と見つけていきました。こうして、教科書に書かれた観点をなぞるのではな

子どもたちは、動画に出てくる二人のやり取りの様子をモデルとし、「二人のような話し方・聞き方ができるようにになりたい」という思いをもちながら、学習に取り組むことができました。

3 「よりよい話し合いをしよう」(四年)

(1) 単元の指導目標

◎司会や提案者などの役割を理解し、目的に向かって、互いの考えの共通点や相違点を考えながら話し合うことができる。

(2) 単元の指導計画(全四時間)

▼第一・二時

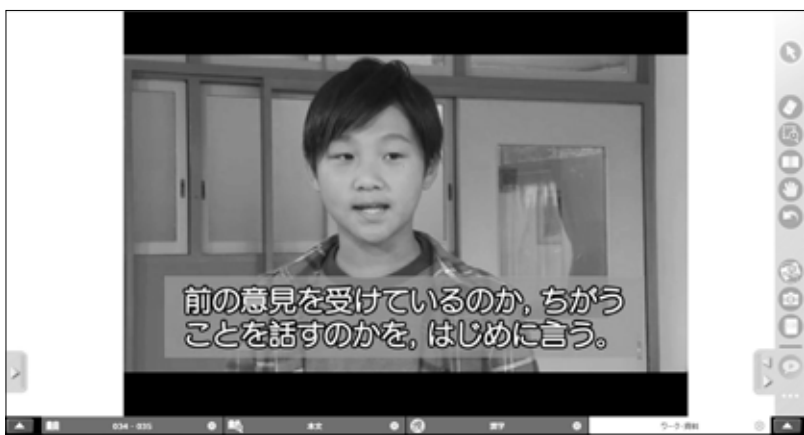
これまでの学級会・話し合い活動での失敗や、困った経験を振り返り、「よりよい話し合いのしかたを考える」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。

▼第三・四時

話し合いの中で司会者と参加者が気をつけなければいけないことについてまとめ、それらに気をつけながら、話題を立てて話し合いを行う。

ここで活用!

く、「話す・聞く」動画から自分たちが見つけ、納得した観点を出し合うことができました。



◀解説音声ありの動画では、話し合いのときに参加者が気をつけることが示される（動画「話し合いの進め方」）。

(3) 活用のポイント

——モデルと学習課題を共有する

■指導の意図

この時期の子どもたちは、学校での活動を積極的に楽しむことができますが、その一方で、自分の思いが強くなり、他者を意識はするものの、時に、自分の考えだけに固執することも少なくありませんでした。「話し合い」とは、お互いの考えを伝え合いながら、一つの出口に向かっていくものであり、一方通行では成り立ちません。そのため、意見や主張の異なる者どうしが合意形成を目指すことはなかなか難しく、うまくいかない場面も多くありました。

また、なかには、人前で話すことが苦手な子、話題を理解することに時間がかかり、なかなか発言ができない子が少なからず見られ、話すことについての個人差があるように感じていました。だからこそ、本単元では、どの子にも意欲的に学習に取り組ませたいと考えました。

■紙の教科書だけを使っていたとき

デジタル教科書を使う以前の授業では、話題を立てて話し合いを行う前に、教科書の例を役割読みしたり、学習指導書付録CDを聞いて気づいたことを出し合っ

その後、「話し合うグループ」と「話し合いを観察するグループ」の二つに分かれて、話題を変えて二回の話し合いを行いました。観察するグループには、話し合いを観察しながら、先ほど見つけた観点に照らしてよくできていると思う友達の話し方をメモに取っておくようにさせます。そして、それを後からクラス全体で確認するのです。もし、クラスにタブレット端末があるなら、それを使って、よいと思う話し合いの様子を録画しておき、後で紹介し合ったり、モデルの姿との違いを比較したりという学習活動を行うこともできるかもしれません。

4 実践から分かること

音声言語による話す・聞く・話し合うモデルの姿を感覚的に捉えさせ、共有するために、デジタル教科書に収録されている「話す・聞く」動画を活用してみました。これによって、子ども自身が自分の学習課題を明確にして、「話すこと・聞くこと」の学習に取り組むことができただけではと考えています。こうした授業改善のため、ぜひデジタル教科書を活用していただければと思います。